

とうほうの風

～ やさしい心 丈夫ながらだ みんな仲よく ひとりだち ～



令和7年(2025年) 6月2日 発行

「“五感”、何を“感じる”かで、心が豊かに」

～年中長組「神戸須磨シーワールド」への遠足から～

【園長：田川隆司】

「地球温暖化」から「地球沸騰化」へどんどん進んでいくと、日本独自の「四季のうつろい」を五感で味わうにはほど遠くなってきたとつくづく感じる日々です。

私は今までたどってきた教育現場で関わった子ども、保護者、教職員や地域関係者に対して、『子どもの時の数々の「体験」は、将来“素敵な大人”になるための第一歩である』と言い続けてきました。すなわち、学校という名の教育の場では、どうしても「教科学習」が主な活動です。しかし、その活動の折々に組み込まれた「各種行事」は、専門的には「特別活動」という領域になり、義務教育を当然経験しておられる保護者であっても、その目的やねらい、そして、時代とともに変化してきた実態は知られているようで曖昧（あいまい）にしか辿（たど）れていないかもしれません。



今回、「春の遠足」として年中長組が訪れたのは「神戸市立須磨海浜水族園」から新しく整備された「神戸須磨シーワールド」へ行きました。永年、親しまれてきた「スマスイ」でしたが、各地に個性的な水族館等が新設され、昔からあった水族園も民間の手が入り、一気にリニューアルされました。当日は天候にも恵まれ、さわやかな初夏の“海風”が吹く神戸の須磨海岸（海浜公園）に隣接したこの施設は、西日本で唯一「シャチ（オルカ）」を見ることができる所です。国内では学術目的以外の捕獲が禁止

されており、国外からのシャチ輸入についても、それぞれの国の法律などによって規制されている例が多く、野生個体の導入が難しい中、人工繁殖などに積極的に取り組むための「神戸保全繁殖センター」も同時に設立されたとのことです。千葉県の有名な「鴨川シーワールド」におけるシャチ飼育の実績も踏まえて、継続的な水族館運営を可能にしたそうで、近年、飼育動物の福祉への関心が高まっており、「神戸須磨シーワールド」においても、飼育生物の QOL (Quality Of Life : 生活の質) に最大限配慮した設計だと関係者から聞きました。

このような場所では日々「飼育員」という方々の手によって“彼ら・彼ら”飼育動物の生活が営まれています。それは、まさに「命」を育てるという点で、人間の子育てにも通じる部分が大きく存在していることでしょう。元々は権力者が珍しい生き物を「集めた」に過ぎず、その飼育環境（飼育と言えるかどうか疑問ですが）も劣悪だったことは十分に想像できます。しかし、現代のそれは必ず SDGs をふまえながら、先端科学を利用して「観察・研究」にまで高められた施設も増えてきています。

そのような世の中の変化を受け止めながら、表題の「“五感”、何を“感じる”かで、心が豊かに」のように、今では様々な施設で心搖るがす“体験”が可能になりましたし、登園する園児の中にも、園の桜の花の散り方に興味を持って、じっと見つめているステキな姿も見受けられました。

さて、東邦幼稚園の子どもたちはというと、「遠足」という言葉だけでこの日をワクワクと待ち望んだことでしょう。豪華な2台の大型バスに乗り、動物の鳴き声クイズなどをしながら高速道路の自然渋滞を抜けると、潮の香りがする神戸へ到着。学生など他団体もいて、ついテンションが高くなりがちなところをボランティアの保護者や先生たちがタイミングよく話しかけ東邦幼稚園として、とてもまとめのある行動をしていて、施設の関係者からもお褒めの言葉をいただきました。

幼児期に「五感」を使って感じ取ることが、その後の「脳」の成長に大きく影響してくると言われて久しくなりますが、駐車場からの通路脇にさりげなく置かれていたオブジェ「スマのおさかな」は、旧須磨水族館から出た廃材と須磨海岸の周りの瀬戸内海で集めた「海洋ゴミ」で作られているという説明書きがありました。シャチ（オルカ）が大好きでこの日を楽しみにしていた私でしたが、今回一番印象に残ったとても珍しい貴重な“生き物”ですので紹介させてください。（左下）



最近「体験の格差」などという言葉がニュースになることも珍しくなくなりましたが、今回「神戸須磨シーワールド」という美しい施設で、普段見ることができない生き物を知ることは、当然ながら何かのきっかけにはなると思います。しかし、そこから先へ“一歩”踏みだすには、ご家庭での継続的なふれあい方、関わり方も大切なのです。日常から子どもたちの言葉に向き合い、誠実に対話し「言葉のキャッチボール」をしていかなければ、互いの思考は深まりません。

俳優：山田孝之さん扮する、「心の豊かさ」の存在を知らない鬼が、様々な人間に出会い、それぞれの価値観に触れ、自分自身に「心の豊かさ」を問い合わせ、少しずつ、いろいろな「心の豊かさ」に気づいていく、というJ.TのCMのように、ふと気づく瞬間を大切にできるステキな親子・家族であってください。

今回の遠足は、時間の制限もありすべてを見ることは難しかったのですが、ぜひご家族一緒に機会に再びご覧いただければ、気に入った生き物をゆっくり堪能できる時間になると思います。

園長の【四方山話（よもやまばなし）】

5月26日(月)に「保育参観」を実施することができました。

登降園時にお会いしご挨拶することが多いのですが、お子様がバスをご利用の皆様とは、ひょっとしたら「入園式」「進級式」以来だったかもしれません。

保護者の皆様から「もっと幼稚園にかかわることができたら…」というお声もいただく中で、先日の遠足へのボランティア参加であったり、これから行事でのお手伝いをお願いしたりと開かれた園づくりに今後も努めてまいります。

子どもたちからの「温かいプレゼント」は、いかがでしたでしょうか。次回もお楽しみに…。

